

4 環境教育WGの活動

(1) 取組内容と成果

赤谷プロジェクトの環境教育に関する様々な検討を実施し活動に反映させるため、今年度は環境教育WGの会議を2回開催しました。

第1回では、環境教育のための研究と実践の場となっている小出俣エリアにおいて、地質の専門家に講師を依頼して、林道の法面にいくつも見られる「露頭」について勉強会を行いました。

第2回では、環境教育WGとしての取り組みの検討、及び今後10年間の目標設定等について話し合いを行いました。今後も、WGの関係者と意見交換をしながら、赤谷センターの環境教育活動の充実に取り組んでまいります。



露頭勉強会



WGの様子

(2) 来年度に向けて

今後は赤谷の森での生態系サービスを学ぶことができるような素材集めを行うとともに、それらを教材としてまとめる等、環境教育の充実を図っていくこととしています。

5 溪流環境の復元に向けた取組

(1) 溪流WGの活動

溪流環境復元WG（以下「溪流WG」とします。）では、溪流環境における生物多様性の復元手法や現状評価の方法等について、平成18年度から検討を行っています。

今年度は、WG会議及び現地調査を計5回行いました。

会議では、第1期の活動の成果と今後のモニタリング方針等について検討を行うとともに、これからのWG活動のメインとなる、プロジェクトエリア内の溪流概況調査の方法及びアウトプットについて検討を行いました。

また、関東森林管理局が開催する「新治地区茂倉沢治山事業施設整備計画調査検討委員会」について、オブザーバーとして計2回参加しました。

WGの概要

| | 開催日 | 主な検討課題 |
|----------------|--------|---|
| 第1回 | 6月20日 | ・これまでの成果及び目標ならびに目標再設定について ・エリア全体の溪流環境の把握方法の検討 |
| 第2回 (現地検討会) | 8月22日 | ・小出俣沢、赤谷川下流広河原他で溪流環境調査 ・213ほ外で人工林化した溪畔林視察 ・溪流環境調査マニュアル・調査票の検討 |
| 第3回 (現地検討会) | 10月6日 | ・小出俣沢での溪流環境調査 |
| 現地調査 | 11月12日 | 同 上 |
| 第4回 | 3月1日 | ・溪流環境WGのモニタリング基本方針について ・溪流環境調査のアウトプットについて |

(2) 来年度に向けて

来年度は今後5年間程度の溪流WGの活動スケジュールを明確にするとともに、溪流概況調査に取り組む予定です。

また、新治地区茂倉沢治山事業施設整備計画調査検討委員会が、今までの調査結果のとりまとめ及び今後の調査計画を検討するため、赤谷プロジェクトとしての意見を反映できるよう調査結果についての検討を行います。



6 地域づくりWGの活動

赤谷プロジェクトの目的の一つである「持続的な地域づくり」について検討するため、今年度は2回の地域づくりWGと3回の旧三国街道マップづくり会合が行われました。

会議では、地域の方たちの赤谷プロジェクトに対する認識や意向等を把握し、赤谷プロジェクトの諸活動に反映させるため、地域住民の意識や意向についてモニタリングをしていくことが提案され、来年度以降実施することとなりました。

具体的な聞き取り内容としては、①地域の皆さんと「赤谷の森」との関わり方の過去と現在、②赤谷の森と赤谷プロジェクトに臨むこと、③新治地区の今後の地域づくりに望むこと等があげられました。

また、今年度から、地域づくりWGのメンバーに地元の旅館経営者やみなかみ町観光協会の方を加えて旧三国街道のマップづくりを進めています。

このマップをどこに置き誰にどのように使ってもらうのか(読者想定)、旧三国街道の魅力とは何か、また、旧三国街道を歩く場合の安全確保の考え方等について幅広い議論が行われました。



会議の風景

7 フィールド利用管理WGの活動

赤谷の森のフィールド利用については、「林道利用のルール」と「赤谷プロジェクトエリアにおける調査研究活動に関する諸手続について」の二つのルールがありましたが、従来から分かりにくいとの指摘がされていました。

そのため、この二つのルールを一本化した「赤谷プロジェクトフィールド利用ルール」の作成に向けて2回のWG会議で検討を行い、その結果を3月23日の企画運営会議に諮り決定されました。

このルールは、赤谷プロジェクト関係者が赤谷の森を利用するときの基本的な考え方や、活動を円滑にするための手続きについてまとめたもので、今後のプロジェクト活動のいっそうの推進に役立つものと考えています。